

2024年度 町田市観光まちづくり推進委員会 会議録

○開催日時 2025年1月27日（月曜日）13時10分～15時10分

○場 所 町田市庁舎 2階 会議室2-3

○出席者 出席委員： 西田司委員長、安達廣美副委員長、川原晋委員、
富田莉莉委員、城孝明委員、杉森俊彦委員、安本達式委員、
亀田文生委員
欠席委員： 和田圭司委員
傍聴者： なし
事務局： 経済観光部長、観光まちづくり課長
他事務局2名

○資 料

- 1 町田市観光まちづくり推進委員会設置要綱
- 2 町田市観光まちづくり推進委員会委員名簿
- 3 町田市観光まちづくりリーディングプロジェクト 2022～ウィズコロナ戦略～
- 4 2024年度観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について

○次 第

1 挨拶

経済観光部長・唐澤祐一より挨拶

2 町田市観光まちづくり推進委員会について

- ・委員会概要説明及び委員紹介
- ・副委員長の選任

3 議題

- (1) 観光まちづくりリーディングプロジェクトの進捗状況について
資料3及び資料4に基づき、事務局から項目別に説明。

委員からの主な質問・意見等

【1-1 「町田薬師池公園四季彩の杜」を町田のシンボルに】

- ・シンガーソングライター・西川元氏が「町田薬師池公園四季彩の杜」の楽曲「時の彩り」をイベント等で披露。家政学院の学生とのコラボで、四季彩の杜で楽しめる花の色や花言葉を集めた「推し植物図鑑」を作成。ノルディックウ

オーキング、コスプレイベント等を実施。秋は、紅葉のライトアップに合わせて雲海イベントを実施。11月30日はFC町田ゼルビアのホーム最終戦にあわせ、ライトをブルーに染める演出を行い、推定7,000人集まった。JR・小田急電鉄・神奈川中央交通とのコラボで、イベントも実施。

・2026年度の目標値を、10万人以上超えている。目標値を設定し直す必要がないか検討してもいいかもしれない。

・周辺道路の渋滞が気になる。現在は、SNSで空いている駐車場の案内や現地案内人を立たせているが、渋滞解消までは至っていない。

・来訪者の季節の平準化を目指すのはどうか。

⇒（事務局回答）

夏と冬は集客が難しく、課題として認識している。協会が実施している春と秋に加えて、夏にもFC町田ゼルビアの試合のタイミングに合わせたイベントを町田市が実施。

・紅葉ライトアップは来訪者が多かったと聞いたが、どのように告知されたか。

⇒（委員回答）

協会のホームページやSNSを活用。また、記者会見や駅・市内施設での大型ポスターの掲示、チラシ配布、メディアへの情報提供等を実施。

・雲海は歓声があがっていた。効果的だったと思う。

・今後、駐車場全体数が足りるのか、積算する必要がある。

⇒（事務局回答）

現状は、SNSでの周知や現場での案内を実施。今後については、四季彩の杜の計画の中で、駐車場を整備していきたいと考えている。

【1-2 花とみどりの魅力を活かした事業の展開】

・今年は桜が一分咲き。芹ヶ谷公園会場は、キッチンカーが多く出店。土曜日は桜が少ない影響か来場者が減った印象だったが、日曜日は前年と比べ、増加。また、JRや小田急電鉄の協力で、町田駅に臨時観光案内所を設置し、FC町田ゼルビアのホーム戦についても案内。桜を巡りながらのツアーやウォークツアー等も実施し、好評だった。

・「さくらまつり」の開催日はどのようにして決めているのか。

⇒（委員回答）

例年秋頃に、市や他の部会（恩田川・尾根緑道）と調整して、日にちを決めている。桜の開花に合わせてイベントを開催したいが、読めない。開花情報の問い合わせが多く来るため、随時情報を掴んで、発信するように努めている。

・観光は天候に左右されるため、どの自治体も苦勞している。随時現状を把握して、開花情報等の問い合わせに答えられるようにしておくなどできることをするしかない。例えば一分咲きの際に来た方に、また満開の時に来ると特典がある等、再訪する仕掛けを作ってもいいかもしれない。

・キッチンカーは一週間ずらして何台かずつ呼ぶ等、コントロールできれば印象が変わる。平日にどれくらいの集客があるのかデータを持ち、事業者に発信していけば、平日でも自ずと出店してくれるかもしれない。

【2-1 人や情報が集まる観光ネットワークの創出】

・香山園のような、和風の建築物でお庭もあるような場所は外国人にうけるか。

⇒（委員回答）

ヨーロッパの方は、このような建物にとっても興味がある。日本に来て、写真撮るのを楽しむ人もいる。中国では、「RED」という **instagram** のような媒体がある。例えば、日本で暮らしている人が情報発信して、それを見た観光客が来訪することもある。

・横浜だと里山と緑地と古民家と一緒にあったものが束になってネットワークを築いている。そういった所を巡るのは観光としてかなり有効。町田市もこういう古民家や歴史的なものをネットワークとしてアピールしてもいい。市内だけで考えると面白くしづらいので、例えば小田急線沿線等の自治体で連携して、何回も来てもらう工夫をしてもいいかもしれない。

・小田急では、交通情報やチケット販売を組み合わせたアプリケーション「EMot」を展開している。例えば、鶴川駅と近隣の各駅停車だけがとまる駅を繋げてみても面白いかもしれない。

【2-2 「まちなか」と「おくまち」の連携の強化】

・相原や小野路などの「おくまち」について、「まちなか」で紹介されている機会が増えていると思うが、町内会や地域住民の中で反響はあるか。

⇒（委員回答）

相原は大胆な発想で地域を盛り上げていて、非常にまとまりのある地域。竹を

始めとした里山の雰囲気があるものなど地域をうまく活用した取り組みは非常に素晴らしい。

・ウォーキングツアーはすごく人気がある。小野路周辺の里山を歩くツアーは、健康志向の方、昔ながらの風景や歴史を感じたい方などに大変人気がある。

・企業研修のように MICE の取り組みとしてフットパスを活用してもいいと思う。さらに、町田駅前での宿泊につなげるなど、「まちなか」の企業と「おくまち」が連携する形を作ってもおもしろい。FC 町田ゼルビアというコンテンツも絡められるかもしれない。

【3-1 ウィズコロナのシティセールスの推進】

・「デート・ア・ライブ」は、町田が聖地になっているのか。

⇒（事務局回答）

アニメの聖地として町田市が選ばれている。

・制作会社側、いわゆる著作権問題を早めに整理できると効果的。

⇒（事務局回答）

アニメ作品を使う時は、著作権は非常に大きい課題である。今後町田市をモデル地としたアニメを作る等の話があった場合は、最初の段階から著作権の問題も整理していけると良いと考えている。

・番組宣伝用カットを自由に使わせてほしいという交渉をあらかじめした方がいい。

⇒（事務局回答）

早くからそのようなところを整理していくことで、お土産などいろいろなところでコラボしていけると良い。

・FC 町田ゼルビア昇格により、市内やまちなかの店等に影響はあったか。

⇒（委員回答）

FC 町田ゼルビアと協力して、無料の招待券 800 枚×3 回程配布。今年は全部すぐになくなってしまった。事業者は「町田」というネーミングが全国にでる反響があるため、喜んでいる。ただ、市民とはまだ温度差があるように感じる。今後はもう少し市民向けに力を入れるべき。FC 町田ゼルビアの試合の日は、ホテル宿泊者が 2 割程度増えていると聞いた。

【3-2 季節感をアピールした情報発信】

・小田急電鉄では、各駅や全体で季節を意識した取り組み等は実施しているか。
⇒（委員回答）

小田急路線の各自治体からのプロモーションを受けて、ポスター掲出等の情報発信の連携をしている。小田急からはスポットや飲食店の紹介などが多い。

・デジタルコンテンツが届かない方に向けたインターネットやホームページ以外の情報発信は実施しているか。

⇒（委員回答）

「散歩の達人」等の取材には積極的に対応している。

・観光雑誌であれば、過去数年の雑誌の傾向を確認し、季節によってどういう特集をしているかなどを研究し、記事を作成するスケジュールを狙って、数ヶ月前・半年前から情報発信をする企業もある。

【3-3 ロケーションの支援】

・ロケ支援の相談はどのようなものが多いか。ホームページの紹介は事前告知か。
⇒（事務局回答）

公園での撮影相談が多い。ホームページは、主に放送後の事後告知。見てくれた人の中には、聖地巡りのような形で実際に町田市に来てくれる人もいる。

・ホームページは受け身の媒体なので、見に来るというアクションがない人にも伝わる情報発信があるとより良い。ホームページの掲載場所の階層が深くて、見づらい。自分たちの中にあるものを磨くために、広く周知して欲しい。

・受け入れ体制の整備とはどのようなことか。

⇒（事務局回答）

公園などの市の所管施設等の支援。ロケ支援会社と情報交換したり、職員がロケ関係の研修に参加したりして、受け入れ体制を整えている。

・町内会の掲示板や市連のホームページで同時に発信するなどできないか。

⇒（事務局回答）

事前告知できるものが少ない。事前に言える作品があれば、検討させていただきたい。

4 今後の観光まちづくり推進委員会について

事務局から説明

5 その他

委員からの連絡事項は特になし

以 上